

# 昔の人の技術すごい

## 朝陽小児童 地域の文化財学ぶ

弘前



高德院の発掘調査現場を見学する児童たち

弘前市立朝陽小学校の6年生が8日、同市西茂森の禅林街の発掘調査現場や長勝寺などを巡り、自分たちの学区の文化財と歴史に理解を深めた。市教育委員会文化財課の「わがまちの歴史と文化探訪・紹介マップ事業」の一環。児童は今後、学習の成果をマップにまとめ、年明けに市内で展示する。(太田佳希)

児童は同課の小石川透主幹 高德院の本堂建て替えに伴うとともに禅林街を歩き、国 発掘調査現場では、「江戸時代史跡「津軽氏城跡弘前城跡」 代の寺の痕跡がないか確認する長勝寺構について、津軽藩 するため、機械は使わず、人の宗教政策も交えて学んだ。手で少しずつ掘って記録して

いる」との同課職員の説明を熱心に聞いていた。

津軽家の菩提寺である長勝寺では、小石川主幹が、国重要文化財である三門、本堂、庫裏、御影堂について、それぞれの歴史や保存修理の方法などを解説。2012年、境内に防火設備を設置するための発掘調査で見つかった、松前藩13代藩主松前徳広の墓所跡も案内した。

禅林街に自宅があるという太田成美さん(12)は「いつも見ている禅林街でも知らないことが多く、新鮮だった。長勝寺の御影堂は初めて見たが、装飾などの昔の人の技術がすごいと思った。たくさんの人に知ってもらいたい」と語った。

同事業にはほかに、大和沢小、西小も参加している。

東奥日報社 令和3年7月18日掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです